

第 26 回青年対策交流集会に参加して

2月21日から23日にかけて豊橋ホテルシーパレスリゾートにおいて開催された第26回全港湾青年対策交流集会に参加させていただきました。

はじめに関東地本の村山部長の挨拶から始まりました。そして、鈴木中央執行委員長の挨拶の中で、「皆さんは子供じゃない、一社会人、一国民として日本国を形成する存在」との言葉があり、今回参加するにあたり気を引き締めてはいましたが更に気が引き締まりました。

松永中央書記長による「各協定について」のオルグを受け、協定が労働環境や職域を守る、そして自分たちの武器となる事を改めて認識し、私が働く環境の海上コンテナ陸上輸送においては安全輸送に関わる問題や課題があり、秩序ある環境、安全に働ける環境を構築するためにも力強く取り組んで参りたいと思いました。

千葉中央執行委員と樋口中央執行委員による「災害時における港湾従事者について」の講演では、被災した港での危険な作業、危険でも作業をしなければならない状況との話を聞き、やはり港湾労働者はエッセンシャルワーカーであり重要な存在だと改めて実感しました。また、震災直後の消防活動時、地域によって消防ホースの形が違う等のトラブルがあった事を初めて聞きました。講演と分散会の中では、救援物資は何が必要だったか、何が1番困ったのかを知る事ができました。避難場所や避難経路の確認、物資等を日頃から備え、経験や教訓を活かして、何かが起きてからではなく先に先にとの思いで各方面に働きかけていきたいと思えます。

そして、松永中央書記長が統括の中で仰っていた、「全港湾らしく尖らせるところは尖らせる」「人を思いやる気持ちが全港湾にはある」との言葉を心に刻んで、今後の組合活動に励んで参ります。

今回参加して、今までの先輩方がつくり、守り、繋いできた事を自分はどう繋いでいくかを更に意識するようになりました。そして、青対受け入れ地本として貴重な経験をさせていただいた事、各地方から参加した皆様と交流できた事がとても嬉しく思うとともに、これからの自分にとって財産となりました。

最後に、ご理解いただきこの様な機会を与えてくださった中央本部をはじめ、地本、支部、分会の皆様にご心より感謝申し上げます。

関東地方横浜支部日本高速分会
青年部員 酒井友樹